

# 絵本の歩みと

## 子どもたち

時代の流れの中で、真に子どものための本として成長をとげてきた絵本の歩みと、鞍手町で長年にわたり子どもの読書活動に力を尽くしてこられたお母さんたちの足跡をたどりませう。



入館料無料

開館時間：午前9時～午後5時

鞍手町歴史民俗資料館

2011

10月2日 - 11月27日

休館日：毎週月曜日、第3日曜日、祝日

〒807-1311 福岡県鞍手郡鞍手町大字小牧 2097 番地  
TEL 0949 - 42 - 3200

### 読書活動の歩み



地区文庫読書会の様子

#### ◆白梅号による巡回文庫

昭和45年、福岡県立図書館の前身である福岡県文化会館で、自動車文庫の活動が始まりました。これは、文化会館が所蔵する図書を2か月ごとに福岡県内各市町村の図書館、配本所、駐車場に自動車配本するシステムで、配本に使用されたバスは白梅号と呼ばれていました。町では、昭和46年より約2年間白梅号を利用し、地域のお母さんたちの尽力で鞍手町中山南区の公民館の一室に書棚が設けられ、常時二百冊の絵本や児童書が配置されました。現在のように子どもの身近に絵本がなかった頃、この活動は多くの子どもたちに絵本の楽しさを発見する機会を与えてくれたことでしょう。この配本システムは現在も宅配便を利用して続けられています。

#### ◆子どもの本の学校

昭和57年、当時鞍手町教育委員会の指導員であった渡辺栄子さんは終戦直後の焼け野原で子どもたちに絵本の読み聞かせをした体験がもととなり、子どもの読書活動に取り組み、公民館講座として「子どもの本の学校」を開設しました。この講座は8年間続けられ、毎年、多くの人が絵本の素晴らしさを学びました。また、この講座には託児コーナーが設けられ、町でのボランティア活動のさきがけとなりました。

#### ◆地区文庫読書会

中央公民館の「子どもの本の学校」で学ばれた人たちは、子育て中のお母さんでしたが、我が子への読み聞かせにとどまらず、それぞれの地域での「読書会」として展開していきました。昭和50年、長谷では「はせ子ども読書会」がすでに活動を始めていましたが、昭和57年からは、各地の公民館で次々と読書会が生まれ、平成元年には町内17箇所読書会が行われるまでになりました。

#### ◆読書活動の広がり

「子どもの本の学校」開設以後、町内のほぼ全域で盛んに行われた「読書会」でしたが、児童数の減少や仕事を持つ女性の増加等の影響で、昭和63年頃よりその活動を継続していくことが難しくなり、町内の保育所や小学校へと読み聞かせの場を広げていくことになりました。「読み聞かせ」という言葉さえ定着していなかった時代。また、保育や教育の場に一般の人が参加することなどなかった頃の活動でした。現在、読み聞かせは町内すべての小学校で行われています。

#### ◆鞍手町文庫連絡会結成

昭和50年以来、町内の各地で開かれてきた読書会の相互連絡を密にし、読書普及活動に努めていくため、平成2年に鞍手町文庫連絡会が結成されました。

平成3年5月、連絡会初のイベントとして児童文学作家の斎藤惇夫氏の講演会と絵本の展示会が長谷寺で開催され、読書に関心の深い人たちが子育て中のお母さん等多数参加されました。この講演会は、鞍手町で文学者が直接読者に語りかけた初めての機会でした。しかも、ボランティアによる手作りのイベントであったことに大きな意義があります。連絡会では以後も、毎年絵本作家を招いての講演会や学習会を開催し、読書活動の充実に力を注いでいます。



文庫連絡会主催絵本作家講演会(平成20年度 長谷川義史さん)

#### 親子読書のすすめ

昔はどの家にも寝物語があり、無意識のうちに子育ての一環のように語られてきました。戦後、椋鳩十氏が「母と子の20分読書」を提唱、親子読書運動「読み聞かせ」が盛んになってきました。親が子に本を読み聞かせることは、親の愛を伝える行為であり、本の楽しさを知らせながら、優しさや勇気、困難の乗り越え方など、生きるに大切な心のインジンをうえつけます。子どもにとって耳からお話を聞くことは、読書の第一歩です。父母の肉声には特別の力があり、子どもの心に生涯消えることのない応援歌となります。どうぞ、ご家庭で本を読み合いながら、大人も豊かな時間を過ごしてください。

